JR北海道グループは、お客様の安全を最優先に、
安心してご利用いただけるサービスを提供し、お客様満足の向上をめざします。
JR北海道公式YouTubeでもさまざまな取り組みを紹介しております。→

未来へつなぐ

Vol. 156

文／本間 吾里砂

二〇二二年二月、二度にわたる記録的な大雪で約七三〇〇本の列車が運休 その経験を教訓に、冬期の列車運行を守る取り組みを強化

昨冬、札幌圏の大雪で大規模輸送障害が発生

営業区域の全域が降雪地帯という特殊な環境を有するJR北海道では、線路が雪に覆われる十二月から三月の期間は冬期体制を敷き、安全を第一に、安定した輸送の確保に努めています。きめ細かな線路の除排雪、車両への着雪防止など、毎年、さまざまな取り組みを行っていますが、二〇二二年二月に札幌圏を襲った二度にわたる記録的な大雪によって、大規模な輸送障害が発生。特急列車を含め、あわせて約七三〇〇本が運休する事態となりました。

降雪カメラ・自動式積雪深計

今シーズンはその経験を教訓に、記録的な大雪となっても昨シーズンのような事態に陥らないよう、新たな「改善策」を加えた冬期対策を実施しています。

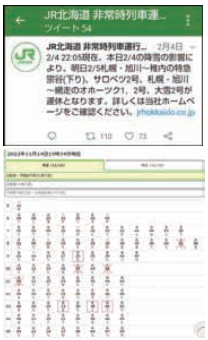
災害級の大雪に備え 冬期対策を強化

事前の除排雪を強化するための対策として、札幌圏の二〇駅に降雪カメラ・自動式積雪深計を設置しました。これにより、リアルタイムに駅構内の降雪情報を把握し、除雪や運行の計画策定に活用しています。

線路を除雪する機械については、札幌圏への配置を増やすほか、より大型、または馬力の強いものへの取り替えを実施。二〇二二年度は二台、二〇二四年度までに計十二台を導入する予定です。雪や氷の介在によるポイント不転換を防ぐ取り組みにも力を入れており、札幌駅や、新千歳空港へのアクセスルート上にあるポイントにヒーターを増設し、融雪能力を強化しました。そのほか、気象予報会社からの情報収集の頻度を上げ、天候の変化にも注視しています。

本格的な降雪期となる一月と二月は、土曜日夜から翌日曜日朝にかけ、札幌圏の駅において除雪作業の時間を確保するため、五本の列車を計画的に運休して作業を実施し、急な大雪に備えます。それでも対応できないほどの大雪時には、協力会社や北海道への応援要請によって、より強力な除雪体制をとることになっています。

列車の運休・遅延をお客様にタイミングよく、さらにわかりやすく伝えるための改善策としては、ホームページの「各駅発車時刻表」に記載された時刻の部分に□印（部分運休）や×印（全区間運休）をつけて運休情報を表示します。ツイッターによるこまめな運行情報も一月以降スタート。また、報道機関に対し、朝夕の通勤通学に合わせた情報発信を行い、運転見合わせとなった際の運行再開の見通しについても、「〇時ごろ」「〇日以降」といった具体的な表記としています。



Twitterと時刻表表示

新千歳空港へのアクセスとして列車を利用するお客様も多いことから、北海道エアポート(株)や空港連絡バス会社との連携を深めていきます。

こうしたさまざまな対策を講じることで、冬でも安心して利用できる輸送サービスの実現を目指しています。Ⓙ